

大腸内視鏡検査を受けられる方に（説明書）

<目的・方法>

腹痛、下痢、血便や貧血の原因を調べ、炎症、ポリープ、癌などを診断するために行う検査です。肛門から内視鏡を挿入して直腸から回盲部までの観察と撮影を行います。その際、生検（組織の一部を採取）して組織診断を行い、色素を散布して、より詳細な観察を行うことがあります。

<ご注意>

大腸内視鏡検査を行うには、大腸の中を空にしなければなりません。検査の予約の際に渡されるパンフレット（便の写真付き）に従って準備をして下さい。腸の中に便が残っていると検査ができないこともありますので、必ず指示を守るようお願いいたします。検査直前に、消化管の動きを抑えるための注射を行うことがありますが、薬の反応で、動悸を起し出し目がチカチカしたり、口が渇いたりすることがあります。ごくまれにショックを起こすことがありますので、薬のアレルギーや体調に異常のある方は事前にお申し出下さい。検査終了後、目の焦点が合わず、眠気を催すことがあります。事故を起こす恐れがありますので、自動車、バイク、自転車などの運転は絶対にしないで下さい。

<偶発症>

内視鏡検査後、とくに生検やポリープ切除を行った場合に、まれに出血や穿孔などの偶発症が起こることがあります。その発生頻度は全国集計（2003～2007 の5年間）で0.3～3.7%（手技によって異なります）、死亡率は0.001%（10万人に1人）でした。万が一、偶発症が起きた際にはそれに対する最善の処置、治療を行います。出血に対しては輸血が必要となる場合もあります。また、宗教上の理由で輸血ができない場合にはお申し出ください。以上、説明に納得された方は同意書にご署名の上、ご提出ください。尚、同意書を提出された後でも検査を中止することはできますので、いつでもお申し出ください。ご不明な点がございましたら医師または看護師にお尋ねください。

<鎮静剤の使用に関して>

以前の内視鏡検査で痛みが出たり大変苦しかったりした方は、鎮静剤を使用し、眠くなった状態で検査を受けることをお勧めします。検査後30分～1時間程度、鎮静剤が覚めるまでベッドでお休みいただきます。鎮静剤を使用した場合、呼吸抑制や血圧低下がおこる場合があります。酸素投与や酸素飽和度や血圧測定の上、必要な処置を行いながら安全に検査を施行致しますが、重度の合併症が起こることがあります。自動車、バイク、自転車などの運転は終日できません。

連絡先

・ 8:30～17:00 千住・胃と腸のクリニック TEL 03-3882-7149